

イベント(種目)の概要

◆ フリースタイル 1-10

一般規定

プログラムにおいて必須課題の試技は 3 回までとし、常に最上の試技を採点の対象とする。もしスケーターが4回目の試技を行った場合、その試技は採点の対象としてはならないが、付加課題の採点対象としてカウントする。

必須課題の一部しか行われなかった場合、その課題の採点は 5 点とする。例えばジャンプやスピコンビネーションの一部、エッジやアラベスクの一部などがこれに該当する。

所持級より下のテスト課題は何でも行ってよいが、所持級より上の級の課題は認めない。もし上の級の課題を行った場合、「付加課題」の審査項目の採点を 2 点とする。

必須課題のジャンプは単独またはコンビネーションで行ってもよい。

アラベスクのフリー・アームのポジションは任意とし、ひざや足を持ってよい。但し、靴やブレードを持つのは除外された動きとなり、テスト必須課題とは見なさない。

ダンスステップは全て一連のパターンの通りとする。

テスト課題一覧

FS1	F.I.ピボット	両足スピン	フォワードアラベスク	B.O./B.I. セミサークル	ハーフ・フリップ	ワルツ・ジャンプ	
FS2	バレエ・ジャンプ	ジャンプ シークエンス	ハーフ・ルッツ	片足スピン	2種類のF.アラベスク	ダンスステップ シークエンス	
FS3	B.O.又はB.I.ピボット	サルコウ・ジャンプ	足換えスピン	バックワード アラベスク	トゥウオーレイ 又はトゥループ	ダンスステップ シークエンス	
FS4	フリップ・ジャンプ	ループ・ジャンプ	シット・スピン	ハーフ・ループ ジャンプ	2種類のB.アラベスク 右及び左	ダンスステップ シークエンス	
FS5	ルッツ・ジャンプ	アクセル・ジャンプ	キャメル・スピン	コンビネーション スピン	バックスクラッチ スピン	ダンスステップ シークエンス	
FS6	スプリット・ジャンプ	スプリット・ フォーリング・リーフ	アクセル～ ハーフループ～ フリップ	ダブル・サルコウ	クロスフット、 レイバック又は 足換えシット・ピン	足換えと姿勢の 変化を含むスピン (3つのポジション)	ダンスステップ シークエンス

※ ダンスステップシークエンスはテスト規定集付録のパターンを参照してください。

※ FS7～10級の課題及び規定については 2018 年テスト規程集・大会規定集を参照してください。

特記事項:

フリースタイル1級の 4つの連続したエッジ(セミサークル=R.B.O.～L.B.O.～R.B.I.～L.B.I.)はどの順番で行ってもよい。また、アクシス(軸)が保たれていればどの様なパターンでもよい。

もしエッジの半分しか行われなかった場合、この課題の採点は 5 点とする。



第 34 回スケートジャパン大会 競技規定 (ISI ハンドブック 2018 年度版抜粋)

もしエッジが連続して行われなかった場合、この課題の採点は 7 点 (得点の範囲の最低点)とする。

フリースタイル2級及び3級のダンスステップシークエンスは、時計回り、反時計回りのいずれの方向で行ってもよい。その他の級のダンスステップシークエンスは、付録の一連のパターン通りに演技する事。

フリースタイル 3 級、6 級、7 級及び 8 級の選択課題は、一つのみ演技すること。万が一誤って両方の課題を演技した場合、最初に演技した課題を採点の対象とし、2 つ目の課題は付加課題としてカウントする。両方の課題を行ったことによるペナルティは無い。

フリースタイル 6 級のコンビネーションスピンは、次の中から少なくとも 3 つのポジションで演技する事:

シット・スピン、バック・シット・スピン、キャメル・スピン、バック・キャメル・スピン、レイバックスピン。各スピンポジションで少なくとも 3 回転し、1 回の足替えを含むこと。

FS4及び FS5のシット・スピン及びフライング・シットスピンは、必須のポジションを終えた後に他のポジションで演技してもよい。

スケーターは全ての必須のスピン・ポジションに、バリエーションを加えてもよいが、従来のフリースタイル種目、ソロ・コンパルソリー種目、ジャンプ&スピン種目、カップル及びペア種目においてはバリエーション部分については必須課題の一部とは見なさない。(テスト及び大会種目共通)

フリースタイル 6 級のサーペンタイン・ダンスシークエンスのトゥジャンプはどちらの方向に回転してもよい。

除外された滑走する動き、ジャンプ及びスピンについては、どのレベルでも行ってよい。

その他

フリースタイル種目では手に持つ小道具の使用は認めない。小道具を使用した場合、ペナルティとして「付加課題」の項目の採点を 2 点とする。

フリースタイル種目審査項目

- | | |
|-------|------------------------------|
| ジャッジ① | 課題1、課題2、正確性、演技時間、総合 |
| ジャッジ② | 課題3、課題4、付加課題、パターン、総合 |
| ジャッジ③ | 課題5、課題6、課題7(もしあれば)、姿勢、リズム、総合 |

◆ オープン・フリースタイル

参加資格

この種目に参加するためには、従来のフリースタイルテスト1-10またはオープン・フリースタイルテストに合格し、所持級の最上級のクラスに参加する事。オープン・フリースタイル種目は、下記の通りブロンズ、シルバー、ゴールド、プラチナの4つのレベルに分類される。

従来の ISI テスト級	USFS テスト級	オープン・フリースタイルレベル
フリースタイル1-3	プレ・プレリナリー アダルト・プレ・ブロンズ アダルト・ブロンズ	ブロンズ
フリースタイル4-5	プレリナリー プレ・ジュヴィナイル アダルト・シルバー	シルバー
フリースタイル6-7	ジュヴィナイル インターミディエート アダルト・ゴールド	ゴールド
フリースタイル8-10	ノーヴィス ジュニア シニア	プラチナ

また、日本スケート連盟のバッジテスト級所持者は、下記の通り相当するオープン・フリースタイル・テストに合格することで、この種目に参加することが出来る。(従来のフリースタイル種目に参加する場合は、FS1 級より相当する FS レベルまでの全てのテストを受検し合格しなければならない。)

日ス連バッジテスト級	ISIフリースタイル級	オープン・フリースタイル級
初級	1級	ブロンズ
1	3級	ブロンズ
2	5級	シルバー
3	6級	ゴールド
4	8級	プラチナ
5	9級	プラチナ
6, 7, 8	10級	プラチナ

全てのスケーターは、所持級の最上級のクラスで大会に参加する事。従来のフリースタイルテス



第 34 回スケートジャパン大会 競技規定 (ISI ハンドブック 2018 年度版抜粋)

トの所持級レベルよりも高いレベルのオープン・フリースタイルテストに合格したスケーターが、従来のフリースタイル・イベントに参加する場合、オープン・フリースタイル級と同等レベルの従来のフリースタイル・テストに合格しなければならない。

例：従来のフリースタイル5級のスケーターが、オープン・ゴールドテストに合格した場合、このスケーターの所持級の最上級はオープン・ゴールドになる。このスケーターが従来のフリースタイル・イベントに参加する場合、最低でも同等レベル最上級のフリースタイル6級に合格しなければならない。

注意：課題に関する演技制限に留意する事。ダブル・トゥループ以上の演技を予定する USFS スケーターは、USFS レベルを適用する為にオープン・フリースタイル・プラチナレベルのテストに合格して、このクラスに参加する事。

一般規定

ISI オープン・フリースタイル競技では、必須課題は特にないが、大会のプログラムはジャンプ、スピン、繋ぎの動き、滑走する動き、コンビネーションやステップ・シークエンスなどバランスのとれた内容である事。除外された滑走する動き、ジャンプ及びスピンはどのレベルでも演技してよい。

演技課題の制限について

スケーターはどのスピンも制限なく演技することができるが、ジャンプに関しては別途一覧の通り制限を設ける。制限を逸脱した場合及び誤った課題を演技した場合は、「ジャンプの正確性＝ジャッジ①」の採点項目を2点とする。

その他

オープン・フリースタイル種目では手に持つ小道具の使用は認めない。小道具を使用した場合、ペナルティとして「振付とパターン」の項目＝第3ジャッジの採点を2点とする。

オープンフリースタイル演技時間

<u>テストレベル</u>	<u>演技時間</u>
ブロンズ	2 分
シルバー	2 分
ゴールド	3 分
ゴールド・ショート	2 分
プラチナ・ショート	2 分 50 秒
プラチナ	3 分 20 秒
プラチナ・プラス	4 分 30 秒

オープン・フリースタイル審査項目

ジャッジ①	ジャンプの正確性、動きの多様性、プレゼンテーション、総合
ジャッジ②	スピンの正確性、音楽の解釈、姿勢、総合
ジャッジ③	ターンやエッジの正確性、振付とパターン、演技時間、総合

注意： オープンフリースタイル種目には「付加課題」の審査項目がないので、必要以上に長いプログラムを演技したり、付加的な要素を入れても従来のフリースタイル部門のような加点の対象とはならない。 試技された要素の正確性(正確性)のみが審査され採点される。 全てのオープン・フリースタイル・プログラムは、演技された課題の量ではなく、質を審査の対象とする。

◆ソロ・スポットライト： キャラクター/ドラマチック/ライトエンターテイメント

スポットライト種目は技術的なスケーティングの要素に焦点を当てるものではなく、プログラム全体の娯楽的価値を重視するものである。 技術点や正確性の採点項目はない。

スポットライト種目には必須課題はないが、スポットライト・プログラムで演技できる要素は下記の通り限定する。

<u>テストレベル</u>	<u>演技できる要素</u>	<u>演技時間</u>
トット級、プレアルファ～デルタ	FS1 まで	1:00
FS1-3 / ブロンズ	FS4 まで	1:30
FS4-5 / シルバー	FS6 まで	1:30
FS6-7 / ゴールド	無制限	2:00
FS8-10 / プラチナ	無制限	2:00

演技の制限を守れなかったスケーターは、審査項目「音楽と振付」の採点を2点とする。

除外された滑走する動き、ジャンプ及びスピンについては、どのレベルでも行ってよい。

*** キャラクター部門：** 有名で簡単に識別できるキャラクターを、音楽、衣装、小道具(必須ではない)とスケーターの動きで描写する。 例： ピンクパンサー、マイケルジャクソン、赤ずきん、アニー、ミッキーマウス、グーフィー、ドナルドダック等々

*** ドラマチック部門：** 審査員や観客が感情を揺さぶられるような芸術的、演劇的な演目。 スケーターの解釈は、スタイル、創造性、衣装や小道具(必須ではない)で強調されたムードを醸し出すものであること。 ドラマチックな演技だったと、演技全体が印象に残るような演技。

第 34 回スケートジャパン大会 競技規定 (ISI ハンドブック 2018 年度版抜粋)

*** ライトエンターテイメント部門:** 音楽、衣装、小道具 (必須ではない)、コメディ、ダンスやスケーティングの動きを使って、爽快かつ愉快で、寄席芸人的なファッションで楽しませる演技。ライトエンターテイメントは、スポットライト部門やドラマチック部門に当てはまらない、全てのスポットライト演技を対象とする。

スポットライト・ソロ審査項目

ジャッジ①	音楽と振付、アピール度
ジャッジ②	衣装と小道具、アピール度
ジャッジ③	独創性、演技時間、アピール度

◆カップル・スポットライト

2名のスケーターが娯乐的、感情的またはキャラクターを真似たプログラムを、衣装や小道具 (必須ではない) を使って演技する。この種目はパートナーの選択により以下の5つのクラス分けを行う。それぞれのグループは更にカテゴリー (キャラクター、ドラマチック、ライトエンターテイメント、テーマ) と年齢によってグループ分けを行う。

2名の異なるテスト級のスケーターがカップルで参加する場合、上の級の部門に参加する事。

クラス	テストレベル	演技できる要素	演技時間
ロー	トット級、プレアルファ～デルタ	FS1 まで	1:00
ブロンズ	FS1-3 & ブロンズ	FS4 まで	1:30
シルバー	FS4-5 & シルバー	FS6 まで	1:30
ゴールド	FS6-7 & ゴールド	無制限	2:00
プラチナ	FS8-10&プラチナ	無制限	2:00

演技の制限を守れなかったスケーターは、審査項目「音楽と振付」の採点を2点とする。

除外されたペアまたはアダージョ・スタイルのリフトや頭上のリフトは、安全上の理由により、ロー、ブロンズ、シルバー部門での演技は認めない。

除外された滑走する動き、ジャンプ及びスピンのについては、どのレベルでも行ってよい。

審査項目はスポットライトと同じ。

◆ファミリー・スポットライト

年齢、テスト・レベルに関わらず、2名以上の家族で構成されたグループを対象とする。衣装や小道具



第 34 回スケートジャパン大会 競技規定 (ISI ハンドブック 2018 年度版抜粋)

(必須ではない)を使って、楽しく娯乐的、感情的またはキャラクターの描写などを演技する。 グループ分けはまず構成人数、次に年齢、更にテストレベルによって行う。 演技者は全員スケート靴を着用しなければならない。どのレベルにおいても何を演技してもよいが、技術的な審査項目は無い。

演技時間は1分30秒。

審査項目はスポットライトと同じ。

◆ アンサンブル

年齢、テスト・レベルに関わらず構成された3～7名のグループを対象とする。 グループのスポットライト演技のようなもので、必須課題や技術的な採点はない。 どのレベルにおいても何を演技してもよいが、技術的な審査項目は無く、娯楽性やプログラムの演技の価値を審査される。 グループは、テーマを強調する衣装や小道具(必須ではない)と音楽を使用すること。

演技時間は3分間。

審査項目は、スポットライトと同じ。

大会規定抜粋

◆ 衣装と小道具<スポットライト、アンサンブル共通>

衣装や小道具は必須ではない。

小道具を使用する場合は、スケーターが1人で片道30秒以内に1回で氷上に運べるものでなければならない。 リンク入口で氷に載せる時と、演技終了後にリンクサイドに引き上げるさいは、周囲の手を借りてもよい。 小道具のサイズは、スケーターの身長や体重に見合ったものであること。

生き物、炎や煙の出るもの、氷の表面に影響を及ぼすもの(例: 濡れたモップ、ホイップクリーム、シェービングクリーム等)は認めない。 羽やスパンコールなどが散乱し、氷の状態に著しい影響を及ぼす場合はペナルティの対象とする。 安全上の理由により、ドライアイスの使用は禁止する。 ジャッジ席に小道具を置くことは禁止すると共に、小道具の片づけ忘れとみなし、ペナルティの対象とする。

小道具の規定を逸脱した場合のペナルティ:

下記の場合はペナルティとして「衣装と小道具」の採点を2点とする。

- * シェービングクリーム、ホイップクリーム等で著しく氷の状態を変えた場合
(若干の水滴はこの限りではない)
- * セットアップに30秒以上かかった場合

第 34 回スケートジャパン大会 競技規定 (ISI ハンドブック 2018 年度版抜粋)

* 片づけ(氷上からの退出)に 30 秒以上かかった場合

* リンクサイドからの小道具の持ち運びが 1 回で出来なかった場合

注意: 選手で入り口の位置はリンクにより異なるので、小道具については考慮して準備する事。

◆ その他

間違った音楽がかけられ場合、スケーターはすぐに演技をやめて20秒以内にレフリーに申告すれば、再度演技を行うことができる。もし、スケーターが自分のプログラムを途中で忘れてしまった場合、20 秒以内にレフリーに申告すれば、レフリーが最初からプログラムをやり直すか、あるいは忘れたところから続けて演技することを認める。靴紐がほどけるなど予期せぬ出来事が発生した場合も、速やかにレフリーに知らせること。

エントリーが一人の種目の場合、スケーターが1位を獲得するためには満点の 80%の得点(平均 8 点)を獲得しなければならない。それ未満の得点の場合はエントリーが 1 名であっても2位とする。

◆ タイミングと演技時間

演技のタイミングは音楽開始後の最初に動作(足は動いていなくてもよい)からスタートする。スケーターが完全に動作を止めた時点で終了とする。演技時間は規定の時間+10秒間の余裕を認める。審査は規定の演技時間の10秒後に終了する。

演技時間の採点について

エントリー数	規程演技時間の演技	11秒~14秒超過の演技	15秒以上超過の演技
2名以上の種目	7.0	6.5	6.0
1名又は1組のみの種目	8.0	7.5	7.0